

はじめに

ユニセフ（国際連合児童基金）は、世界中すべての子どもたちの健やかな発達を目指して活動する国連機関です。日本の子どもたちにも、ユニセフ学校募金活動などを通じて、その名は親しまれてきました。

平成14年度（高等学校は平成15年度）から本格的に導入される「総合的な学習の時間」は、そのテーマ例に国際理解や福祉を掲げています。これに伴い、ユニセフが新たなかたちで活用される例が増えています。

世界161の国と地域で活動するユニセフは、子どもたちが同じ世代の仲間たちの姿を通じて現在の世界のようなすをとらえ、地球市民としてどのように考え、行動したらよいか、という問いにこたえる多くの要素を持っています。

今回、「総合的な学習の時間」にユニセフを活用するにはどのような方法があるか、現場の先生方と一緒に研究会を実施いたしました。本冊子は、その研究会の成果を踏まえて編集されています。ご協力いただきました先生方にお礼申し上げますとともに、多くの学校でこの冊子をご活用いただき、より自由に幅広くユニセフが役立てられることを願います。

研究会参加者

東京・江戸川区立新堀小学校	渡辺 哲郎	教諭
神奈川・大磯町立国府小学校	水越 正志	教諭
神奈川・藤沢市立湘南台小学校	岩澤 洋子	教諭
東京・杉並区立和泉小学校	伊藤 祥子	教諭
神奈川・小田原市立橘中学校	大坪 禎太	教諭
埼玉・越谷市立武蔵野中学校	須関 知昭	教諭
神奈川・川崎市立川崎総合科学高等学校	川崎 操	教諭
長野・長野県辰野高等学校	有賀 久雄	教諭
東京・（私）帝京中学・高等学校	東海林 啓造	教諭
栃木・栃木県立宇都宮中央女子高等学校	大嶋 里美	講師
神奈川・神奈川県立大和南高等学校	望月 浩明	教諭

（順不同、学校名は平成12年度現在）

目 次

1 ユニセフと「総合的な学習の時間」…その接点	2
ユニセフ早わかり	4
2 ユニセフから広がっていくことば	6
3 ユニセフを活用して設定可能な学習テーマ	8
4 ユニセフを活用した活動展開例	10
5 これを活用！ ユニセフ資料案内	30

1 ユニセフと「総合的な学習の時間」—その接点

ユニセフ(国際連合児童基金)の活動は…

- ・世界中すべての子どもの権利を守り、子どもが持って生まれた能力を十分に発揮できる機会を広げることを目指しています。
- ・子どもの生存、保護、発達を確保し、困難な状況や緊急事態下にある子どもたちなど、支援を必要とする子どもに的確な支援を行っています。
- ・国際社会の平和と持続可能な発展を目標としています。

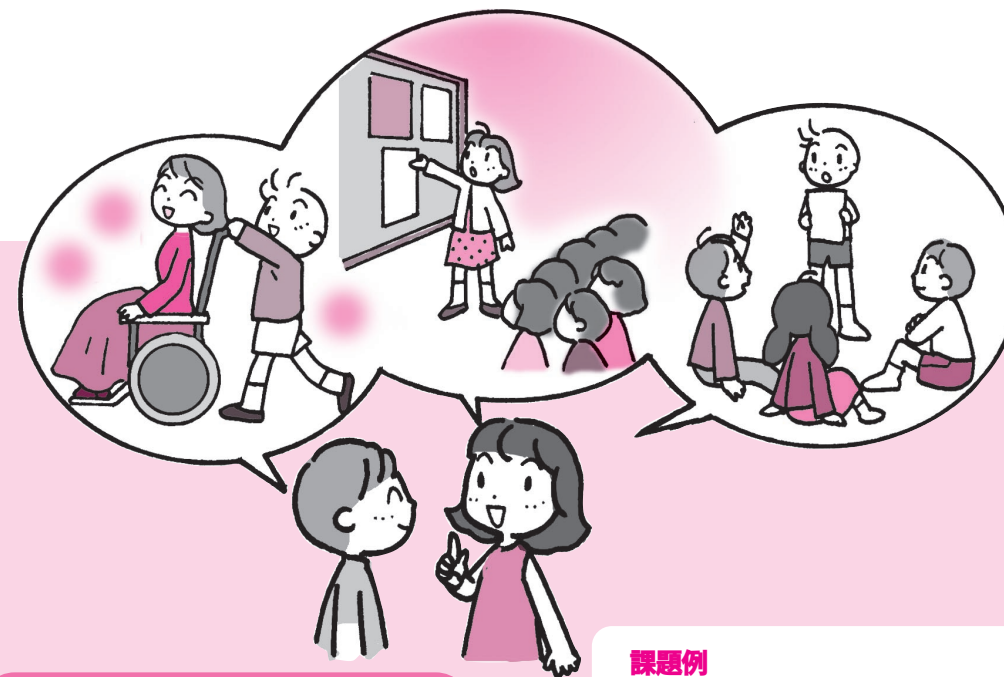
しかし、一朝一夕に解決されない世界の諸問題に対処するためには…

対症療法的な活動だけではなく、将来、こうした問題の解決を託される子どもたちが、互いを尊重し、地球規模で協力してよりよい方向性を見出していける資質を持った人材に育っていくことが必要不可欠

地球市民の育成を

ユニセフの目指す「地球市民の育成」は…

- ◎ 世界の問題に関する知識を得て、それを考察する力を養う。
- ◎ よりよい世界を築く(平和・寛容・他との協力、社会正義、環境保護など)ために、また、さまざまな問題を解決するために必要な思考方法やみずから行動を起こす力を参加型・体験型の学習を通じて養う。
- ◎ 未来に希望を持ち、自分達自身がよりよい未来をつくる原動力だと考え、「参加」する態度を培う。



「総合的な学習の時間」は…

創設の趣旨

- 1 地域や学校の実態等に応じて創意工夫を生かし、特色ある教育活動を展開できる時間を確保する。
- 2 国際化や情報化をはじめ社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を育成するために、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習をより円滑に実施するための時間を確保する。

課題例

- ① 国際理解、環境、情報、福祉・健康など
- ② 児童・生徒の興味関心に基づく課題
- ③ 地域や学校の特色に応じた課題
- ④ 進路、生き方

重視する活動、学習例

- 自然体験、ボランティアなどの社会体験
- 見学や調査
- 発表や討論
- 問題解決的な学習

「総合的な学習の時間」のねらいは…

- ◎ 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。
- ◎ 学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。



世界の子どもの状況

- 1年間に1100万人の5歳未満の子ども（1日3万500人、3秒にひとりの割合）が死亡している。死亡原因の多くは予防可能なもの。
- 開発途上国の子どもの3人にひとりとは中・重度の栄養不良。
- 人口の約4分の1が安全な水を手に入れることができない。
- 人口の2分の1近くは、適切な衛生施設（トイレなど）がない。
- 開発途上国の就学年齢児童 1億1000万人以上が未就学。
- 少なくとも6億人の子どもが、1日1米ドル未満の収入しかない家庭で育っている。
- 有害で過酷な労働を強いられている5～14歳の子ども 2億5千万人。
- 過去10年の紛争で命を奪われた子ども 200万人。
- 兵士として使われている子ども、約30万人。
- 1999年に130万人の15歳未満の子どもがHIVウイルスに感染し、新たに毎分6人の割合で25歳未満の若者がこのウイルスに感染している。

ユニセフの使命

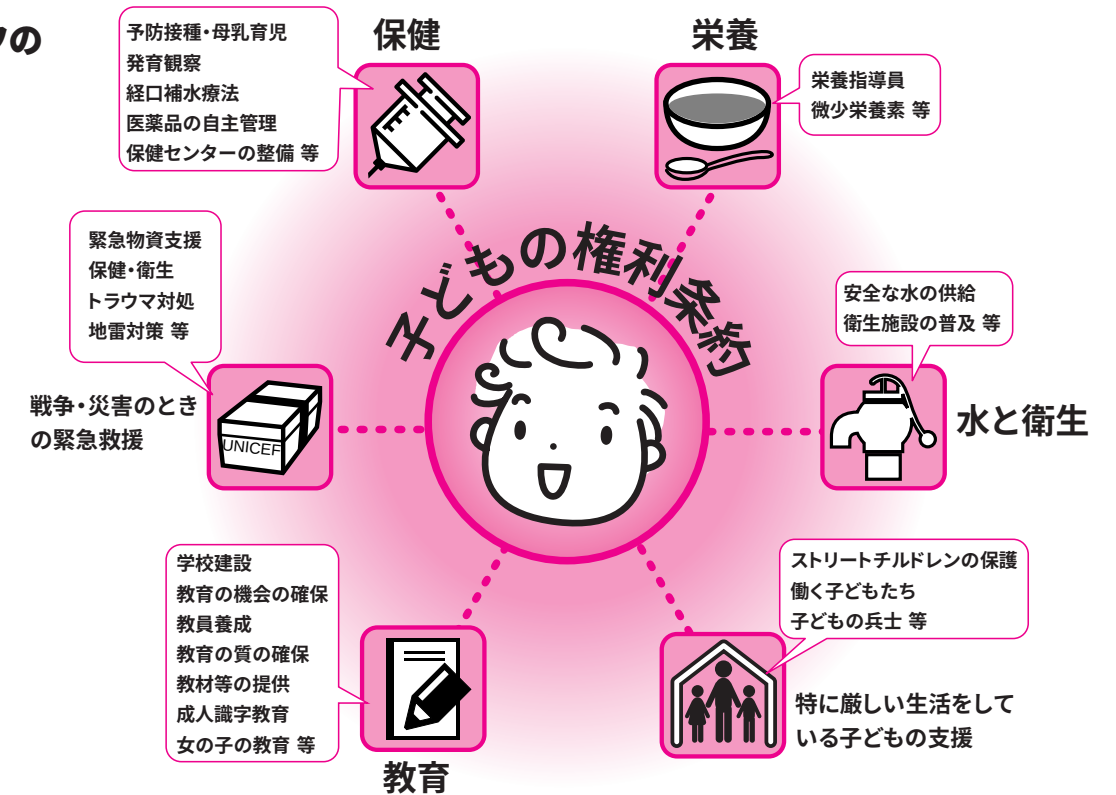
- ユニセフは、子どもの権利を守り、子どもが持って生まれた能力を十分に発揮できる機会を広げるために活動する 国際連合の機関です。
- ユニセフは、「子どもの権利条約」に基づいて活動し、この条約が広く子どもに対する行動の基礎となるように努力します。
- ユニセフは、子どもの生存、保護、発達が、人類の進歩にとって不可欠だと考えています。
- ユニセフは、各国の政府などに働きかけ、「子ども最優先」の原則が実現するように支援します。
- ユニセフは、最も困難な状況にある子どもたちが特別の保護を受けられるようにします。
- ユニセフは、緊急事態にすばやく対応して、子どもを守ります。
- ユニセフは、中立の機関で、最も支援を必要としている子どもを優先的に援助します。
- ユニセフは、女性と女の子が男性と平等の権利を得られるように支援します。
- ユニセフは、国際社会の平和と調和のある発展を目指します。



Facing the Challenge

What's UNICEF?

ユニセフの活動



ユニセフの支援基準

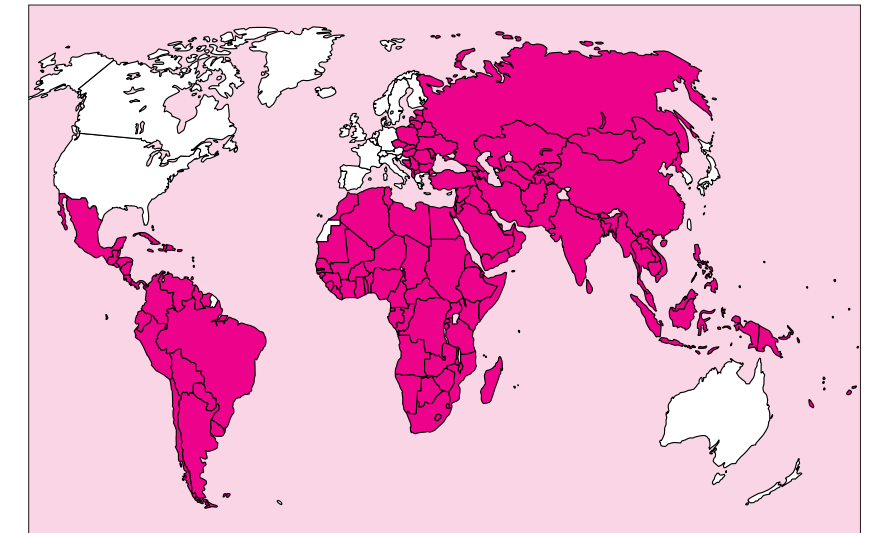
ユニセフは次の3点を支援の判断基準にしています。

- 1 5歳未満児の死亡率
- 2 国民ひとりあたりのGNP
- 3 子どもの人口

ユニセフの特徴

- ・子どものための国連機関
- ・現地の自立を促す開発協力機関
- ・政府・民間との幅広い協力関係
- ・中立性、実行力、強い使命感

ユニセフが活動している国と地域 161



自立を目指した活動

ユニセフは、緊急救援の場合を除き、物資をただ提供するのではなく、住民がみずからの力で子どもたちを健やかに育てられるように手伝うという立場をとっています。

野菜の種・ひよこ・稚魚の提供や、保健や衛生の知識を広めるプロジェクトなどがこれを象徴しています。たとえば右の図は、下痢による脱水症状で命を失う子どもを救うための経口補水療法のやり方を示したものです。このような簡単な知識でもいったん広まれば、物資などを提供し続けなくても、たくさんの子どもの命を守ることができます。

経口補水療法

- 1 安全な飲み水1リットル
用意（一度沸騰させた水）



- 2 塩を小さじに半分



- 3 砂糖を小さじに4はい



- 4 ぜんぶをかきまぜて
できた水を脱水症状
の子どもにすこしずつ
飲ませます。



緊急救援時や保健センターの常備用として、どこへでもすぐ使える経口補水塩（ORS）と呼ばれるパッケージも提供されています。

